

### [3] 将来に向けた発展方策 <1> 効果が上がっている事項

学修進路支援委員会、学生生活支援委員会及びFD・学生支援推進委員会の議論と学部・学科へのフィードバック、自ら定めた「学生支援に関する方針・中期目標」の実行性を一層高めていく。

現在効果が上がっている「入学前ガイダンス」《資料VI-23》、各種奨学金による経済支援《資料VI-24》、「新入生なんでも相談窓口アスクカウンター」《資料VI-9》及び学習相談《資料VI-10》を継続して実行していく他、2012年度に答申された「退学者防止プロジェクト」《資料VI-6》も併せ、関係部署が協力し修学支援することで、退学者数を抑制していくとともに、在籍学生の支援を継続する。

様々な障がいを抱えた学生は増加傾向にあり、これらの学生に対する支援体制強化が求められている。現状では、学生相談室や健康管理センターの専属スタッフによる指導と支援が実施されているが、ケアを必要とする学生数が増加する傾向にあり、構築できた支援体制を今後さらに強化していく。

就職の「率」と「質」をさらに上げるため、積極的に企業訪問を行いながらその企業との関係を深めていく。また、訪問により得られた有益な情報を学生に提供していく。

資格取得については、目標を設定・達成した学生から「達成感を得られる」「取得したい資格があればどんどん挑戦してみたい」との積極的な意見が寄せられているため、全学の教員から構成されている「資格取得講座専門委員会」委員とのヒアリングを通じ、引き続き、効果的な講座プログラムを充実させる。

### [3] 将来に向けた発展方策 <2> 改善すべき事項

入学前教育課題については、新たな取り組みとして、入学予定者に対して入学前教育課題の目的や効果について説明し理解を促すことや、高校から大学教育への円滑な適応及び新入生同士、先輩学生や教職員との交流を深める入学前スクーリング「プレジンダイセイミーティング」（2014年12月13日（土）を一部の学科にて開催した。今後は、入学前教育課題を効果的に進めるためにも、「入学前教育課題見直し検討ワーキンググループ」を発足し、これらの実績を検証して、対象学部・学科を全学に拡大し、効果的な入学前教育課題の実施のためのプログラムを企画する。

学習相談については、数学の学習相談員の増員を機に、物理も担当できる元高等学校教諭の採用を検討している。

国際寮を含めた学生寮全体について、学生生活支援部、キャンパス整備課及び国際センターにおいて、中長期的な運営計画を策定する。

「米田吉盛教育奨学金」の制度整備について、各種奨学金における個々の応募者数の実態に鑑み、学生のニーズに合致したものになるよう、学生生活支援委員会が中心となり、継続的に検討を行い、早急に改善の提言を行う。

より多くの学生に進路支援が行えるよう、進路把握と内定支援に努めるため、ここ数年、ガイダンスの強化や広報活動の拡充により受講生の増加に取り組んでいるが、学内で受講できるメリットなどを一層周知し、受講生の増加に努める。また、ゼミナールや研究室の

指導教員が、KU キャリアナビを利用し、所属する学生の進路報告や求人検索等ができるよう環境を整える。